

謹弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

池田昌三氏	宇部市医師会	9月17日	享年92
森文信氏	下関市医師会	11月4日	享年91
田村勝司氏	光市医師会	11月24日	享年94

編集後記

(これまでのあらすじ)

昨年の初夏、老後の趣味はトレッキングだと思いつく。某有名アウトドアショップで万全の準備を整えるものの、下見に行った山の駐車場で虫に顔面激突されるというアクシデントに見舞われる。いきなり気持ちが急降下してしまい、山登りグッズ特大紙袋二つは、開封されることもなく納戸にしまい込まれることになった。

で、夏秋冬と季節の移り変わりの中で、私はつらつら考えてみたわけです。元々自分は完全なインドア派ではないか。ほら、小学校の昼休み、運動場でゴム飛びに興じる同級生に混じることは一度もなかったな。図書室の窓から、飛び跳ねる女子たちを「雑技団でも入るつもりかい」と横目に見つつ小説を読みふけていた。中学の運動会するときなんか、強面の体育の先生がやってきて、「君は真剣に走っているのか」と尋ねるのでその真意を測りかねながら「はい、精一杯走っています」と答えると、「そうか・・・」とあとは何も言わずに去っていったな。ついでに高校体育の授業でバレーの班分け。普段あんなに仲が良い友らが急にじゃけんになって「ドンくさいあんたが入ったら絶対負けるやん」と私を仲間はずれにしたな。あー、思い出して腹が立ってきた。私の学生時代は暗黒だったかもしれない。

あの山登りグッズの支払いをした家人が、勿体ないとかなんとかぶつぶつ言っているが聞こえないふりをしてやり過ごそう。トレッキングシューズやらリュックサックが入った特大紙袋は青春ならぬ白秋の彷徨のあかしということで、眠っていてもらうことにしたのですが。

今年の未だ春浅い日曜日の朝というか午前中、家人から多数のメッセージが来ていることに気が付きました。珍しい。彼の会話や文章は基本、一ないしは二語文。すわ、何かとラインを開くと、登山道や山道の草花、山頂からの眺望を映した数々の写真。どうやらあの凶暴な虫がいた秋穂の山を登っているらしいです。いつものように、土曜深夜まで電子配信漫画やら映画やらを楽しんで朝寝坊の私にはこのリアルタイム連続山岳写真は、ほぼサイバーテロ。何か罪悪感に近いものを感じます。

どうやら、あの紙袋の封印を解くときがきたようです。家庭平和が第一。この下手な写真でも山の澄んだ空気感が伝わってくるし、一度肉巻きおにぎりを作ってみるかな。もうすぐ春休みだから、若いのを付き合わせよう。体力だけはあるはずだから、荷物持ちにはなるだろうと娘と息子に招集をかけることにしました。

満を持して、実りある老後のための第一歩です。(なかなか山にたどり着かず、以下次回に続く)

(常任理事 長谷川奈津江)